

既製品浴衣について一考察

- 縫製方法からみる -

小川 秀子

Consideration on the ready-to-wear yukata
- From the perspective of sewing methods -

Hideko Ogawa

1 はじめに

戦後70年を経過した我が国のアパレル市場は、溢れんばかりのファッションで埋め尽くされている。反面、日本の伝統衣装である着物は、着付ける手間や活動的ではない点において、非日常着として着用することが多い。しかし、着物の中でも浴衣は気軽に楽しめるアイテムとして、若者の間で浴衣ブームをつくり夏のカジュアルウエアとして定着し、以来20年以上経過している。筆者が本学の女子学生を対象に実施した、和服着用の実態調査における浴衣着用率は、他の和服着用機会を大幅に上回る結果がみられた。¹⁾

本学の人間総合学科カリキュラムのなかで、筆者が担当する「和装コーディネート演習」の科目では、きもの文化を継承するための教育として、和服についての基礎知識習得や和服体験学習の試みとして、浴衣を用いた着装などを授業に取り入れている。ここ10年ほどでみると、学生が着付け用に持参する浴衣のなかで、年々既製品浴衣の割合が多く占めるようになってきている。

そこで本稿では、手縫いによる浴衣の仕立て方と既製品浴衣の縫製方法について、比較検討し、考察を試みた。

2 研究方法と資料について

今回の調査に使用した表1に示すNo.1からNo.9の既製品浴衣について、購入先と縫い方を対象とする、袖口、袖口下、袖のふり、袖付け、衿下、衿付け、脇縫い、背縫い、裾などの各部位の縫い方、縫い代の幅、縫い代の始末の仕方について調べた。

既製品浴衣
縫い方と縫い代について

表 1

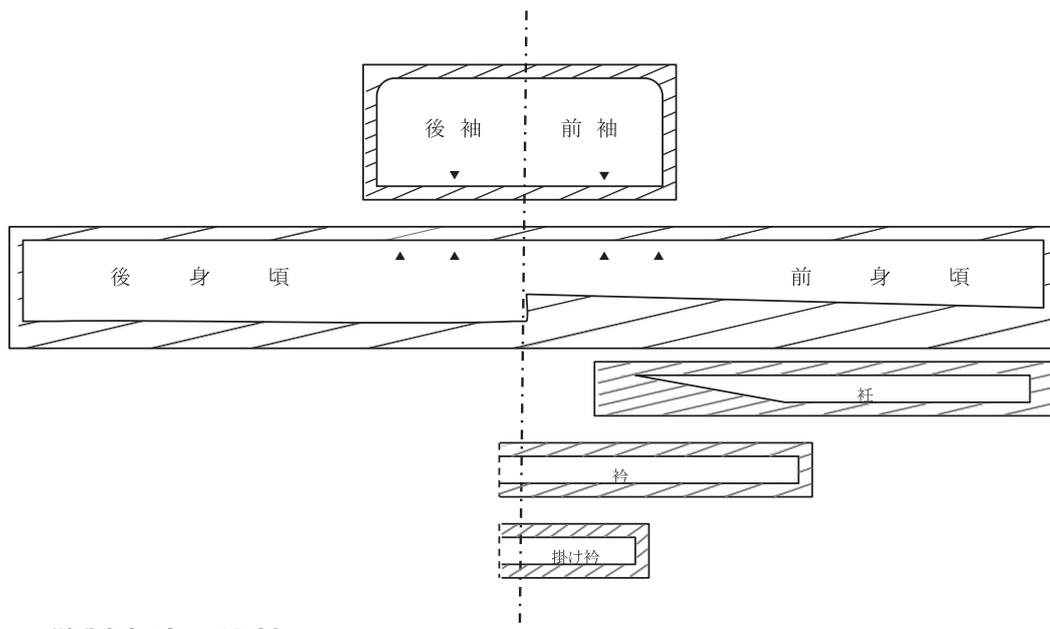
資料No.	購入先	袖口		袖口下		袖の振り		袖付け		衿下		衿付け		脇縫い		背縫い		裾	
		幅	始末	幅	始末	幅	始末	幅	始末	幅	始末	幅	始末	幅	始末	幅	始末	幅	始末
No.1	不明	1.0cm	三つ折りぐけ	1.4cm	手ではなく、裁ちっぱなし	1.8cm	三つ折りぐけ	袖幅 1.8cm 身頃幅は3cm	折りぐけ	0.9cm	三つ折りぐけ	3.7cm	折りぐけ	3.4cm	折りぐけ	1.1cm	袋縫い	1.4cm	三つ折りぐけ
No.2	大型量販店	0.8cm	三つ折りミシン	1.4cm	一折りロックミシン	1.1cm	三つ折りミシン	1.4cm	ロックミシン	0.7cm	三つ折りミシン	0.6cm	伏せ縫い	0.8cm	袋縫い	0.8cm	袋縫い	1.3cm	三つ折りミシン
No.3	不明	0.8cm	三つ折りミシン	1.0cm	2枚一揃いに ロックミシン	0.9cm	三つ折りミシン	1.5cm	ロックミシン	0.6cm	三つ折りミシン	1.1cm	袋縫い	1.1cm	1枚ずつ ロックミシン	1.3cm	袋縫い	1.4cm	三つ折りミシン
No.4	大型量販店	0.5cm	三つ折りミシン	1.0cm	一折りロックミシン	2.0cm	一折りロックミシン	2.0cm	ロックミシン	0.5cm	三つ折りミシン	1.0cm	伏せ縫い	1.8cm	ロックミシン、縫い代割る	1.5cm	2枚合わせて ロックミシン、片返し	1.0cm	三つ折りミシン
No.5	不明	0.7cm	三つ折りミシン	1.8cm	2枚一揃いに ロックミシン	1.0cm	三つ折りミシン	1.2cm	ロックミシン	0.7cm	三つ折りミシン	1.8cm	袋縫い	1.3cm	2枚合わせて ロックミシン	1.5cm	袋縫い	1.1cm	三つ折りミシン
No.6	貸衣装店から もらった	1.0cm	三つ折りミシン	1.2cm	一折りロックミシン	1.0cm	三つ折りミシン	1.0cm	ロックミシン	0.7cm	三つ折りミシン	1.4cm	袋縫い	1.5cm	1枚ずつ ロックミシン	1.5cm	袋縫い	1.4cm	三つ折りミシン
No.7	ネット通販	0.7cm	三つ折りミシン	1.5cm	三つ折りのみ	1.0cm	一折りロックミシン	1.0cm	ロックミシン	0.6cm	三つ折りミシン	0.7cm	2枚合わせて ロックミシン	0.7cm	2枚合わせて ロックミシン	1.0cm	2枚合わせて ロックミシン	1.2cm	三つ折りミシン
No.8	呉服店	1.0cm	三つ折りぐけ	1.4cm	袖口下7cmまで三 つ折りぐけ、それ 以下は開く	1.4cm	三つ折りぐけ	袖幅 1.4cm 身頃幅は3cm	折りぐけ	1.0cm	三つ折りぐけ	4.5cm	折りぐけ	3.2cm	折りぐけ	1.0cm	袋縫い	1.3cm	三つ折りぐけ
No.9	呉服店	1.0cm	三つ折りぐけ	1.4cm	袖口下7cmまで三 つ折りぐけ、それ 以下は開く	1.4cm	三つ折りぐけ	袖幅 1.4cm 身頃幅は3cm	折りぐけ	1.0cm	三つ折りぐけ	4.5cm	折りぐけ	3.2cm	折りぐけ	1.0cm	袋縫い	1.3cm	三つ折りぐけ

No. 1 ~ No. 9 原産国 中国

女物大裁ちひとえ長着

図 1

縫い代の付け方



3 縫製方法の比較

表 1 に示す、資料No.1からNo.9の中で、手縫いの部分が一か所もなく、全てミシン縫いで縫製されていた浴衣が、No.2、No.3、No.4、No.5、No.6、No.7と 6 枚の浴衣に見られた。No.1とNo.8、No.9の 3 枚の浴衣は手縫いとミシン縫いの両方の縫い方で作られていた。

図 1 に示すように、大裁ちひとえ長着（浴衣）を製作する場合、並幅（36～39cm）に織られた 1 反（13m）の反物を左右対称に 2 枚ずつ裁ち、斜線に示す縫い代は裁ち落さず、身頃に全て付けておく。

図 2 で示す、①はひとえ長着の前身頃裏面、②は後ろ身頃裏面を示している。縫い方の対象となる各部位を A から H とした。

既製品のなかで、全てミシン縫製されていたNo.4の既製品と、仕立て浴衣の縫い方について、図3で示している。

Aで示す背縫いは、仕立ての場合は並縫いで縫われ、縫い代は片返しにして始末している。既製品はミシン縫いの後、布端は2枚一緒にロックミシンをかけて始末している。

Bで示す脇縫いは、仕立ての場合は後ろ身頃と前身頃を縫い合わせた後、縫い代を耳ぐけで始末している。既製品の場合は、後ろ身頃と前身頃の縫い代をそれぞれ1.8cmの幅でロックミシンをかけ、縫い代を割っている。

Cで示す衿つけは、仕立ての場合は前身頃と衿を縫い合わせた後、衿側に片返しをして耳ぐけで始末している。既製品の場合は、縫い代の端が外に出ない袋縫いで始末している。

Dに示す衿下から裾にかけては、仕立ての場合は衿下から裾にかけて三つ折りぐけで始末している。ひとえ長着を仕立てる場合に、重要な部位のひとつである袂先の角を正確に合わせてくけていることが分かる。既製品の場合は、衿下の縫い代を0.5cmと標準寸法より細く折られた状態でミシン縫いをしていいる。裾の始末は逆に標準寸法より太く折られてミシン縫いをしていいるが、袂先の角は不揃いな状態でミシン縫いしていることが分かる。

D-1を表側から見ると、仕立ての場合は衿下から裾にかけて三つ折りぐけしているが、浴衣地と同色の縫い糸を用いているために、くけの針目が表側にほとんど見えていないことが分かる。既製品の場合は、衿下の縫い代を0.5cmと細くした状態でミシン縫いしているために、衿下が落ちつかず、裾の始末もミシンで縫われているために、粗雑な縫い方であることが分かる。

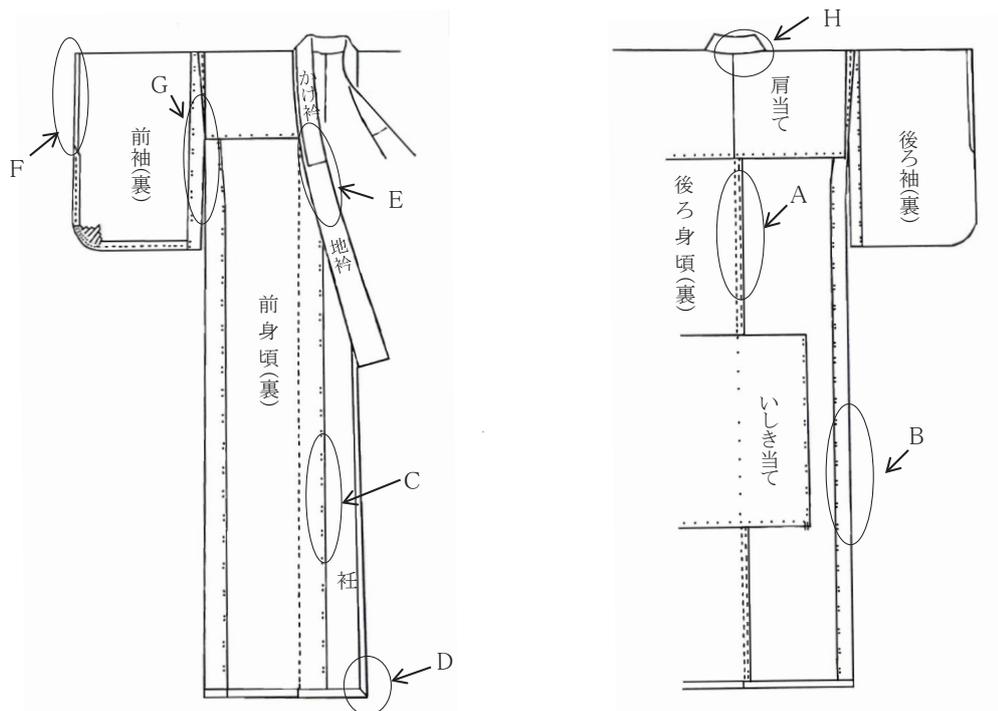
Eに示す衿付けを見ると、仕立ての場合は本ぐけで始末しているため、縫い目が一切出していない。既製品の場合は、地衿をミシン縫いで付け、衿幅を整えた後、押えミシンで縫っているが、地衿側にミシンの縫い目が見えている。

Fに示す袖口を見ると、仕立ての場合は袖口の縫い代を出来上がり幅が0.7cmと正確に三つ折りしていることが分かる。

① 前身頃 (裏)

② 後ろ身頃 (裏)

図2



仕立て浴衣と既製品浴衣の縫い方
縫い代始末の比較

図3

仕立て浴衣

No.4 既製品浴衣

仕立て浴衣

No.4 既製品浴衣

A 背縫い(裏)



E 掛け衿(裏)



B 脇(裏)



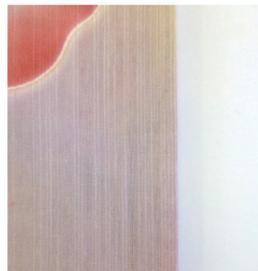
F 袖口(裏)



C 衿(裏)



F-1 袖口(表)



D 裾・つま先(裏)



G 袖の振り・身八つ口(裏)



D-1 裾・つま先(表)



G-1 袖の振り・身八つ口(表)



F-1に示す表側から見ると、衿下や裾と同様に浴衣地と同色の縫い糸を用いているため、くけの針目がほとんど表側から見えない。既製品の場合、袖口をミシンで縫っているために、粗雑な縫い方が裏表の両面から見る事ができる。

Gに示す袖付け下の袖の振り部分と身八つ口を見ると、仕立ての場合は、振りも身八つ口も耳ぐけで始末している。既製品の場合、袖の振り部分の縫い代を2.0cm幅に落とし、ロックミシンで縫い代を始末した後、ミシン縫いで押さえている。

G-1に示す表側から見ると、仕立ての場合は、身ごろ側と袖側の耳ぐけのくけ縫いの針目がほとんど見えない。既製品の場合は、身頃や袖の振りは縫い代をひと折りして、押えミシンで縫われているために、表側にミシンの目が2本出ていることが分かる。

図4に示すNo.3、No.6、No.8、No.9の既製品を表側から縫い方を見た場合である。

No.3はEの衿付け部位を示すが、衿付けの落としミシンが表側に出ていることが分かる。

No.6はHの部位を示すが、身頃と衿付けをする際に身頃の肩山の布地を巻き込んで縫われていることが分かる。平面構成の着物の場合、立体構成の洋服と違い、長方形の布を組み合わせ、ほとんどが直線縫いのため、直線と衿肩明きのカーブを縫い合わせる個所は、かなり難易度が高いこともあり生じたものと思える。

No.8は、Gの袖付けの後ろ身頃側を示すが、耳ぐけの目が表側に大きく出ている個所が見られた。手作業でくけ縫いをしているが、技術力が未熟であるためと思える。

No.9は、Eの衿付けを示すが、本ぐけの縫いの目が表身頃側に出ていることが分かる。

No.8とNo.9の2枚については、表側から見えない部位はミシンで縫われ、表側から見える部位はくけ縫いが施されているために、他の既製品より全体的にきれいな縫製がなされていた。

図5のNo.7既製品について①から⑨に示すが、6枚の既製品の中で最も問題点が多く見られた。

①で示すが、袖付け下から身八つ口にかけて見ると、縫い代は0.6cmと極端に細くて袖下の振りの始末はロックミシンをかけ、ひと折りしてミシンで押さえていた。

②で示すが、衿付け地縫いの部位において、ミシンの糸調整がなされないまま縫製し、縫い糸やロックミシンの糸が絡んでいる個所がかなり見られた。

③と④で示すが、脇縫いの縫い方と始末であるが、前身頃と後ろ身頃を縫い合わせた後、ロックミシンをかけている。縫い代が不揃いの上0.5cm弱と極端に縫い代が少ない個所や②と同様にロックミシンが絡んでいる個所もかなり見られた。

⑤で示すが、肩線を見ると肩線が左右平らではないことが分かる。

⑥で示すが、裾線を見ると身丈が明らかに違うことが分かる。

図4

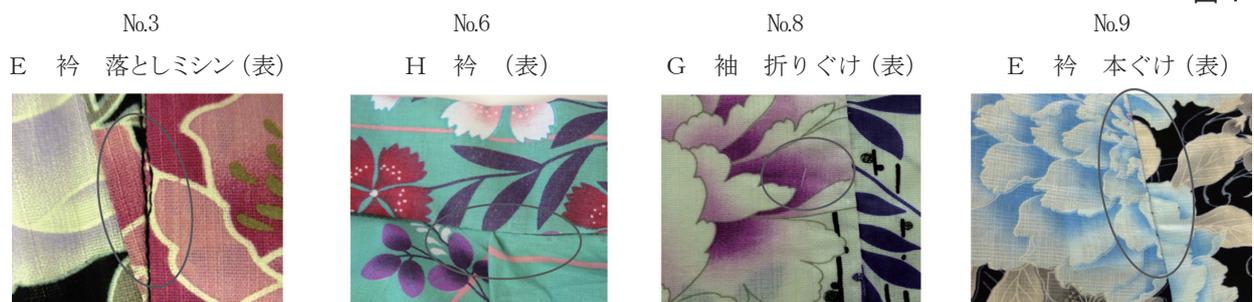


図5



⑦と⑧で示すが、身頃をたたんだ場合、右前身頃の裾が6.4cm長く、左前身頃は3.4cm短いことが分かる。
 ⑨で示すが、平らにおいた場合、浴衣が大きく歪んでいることが分かる。浴衣全体が歪んでいるために浴衣をたたむ際に裾が合わず、平らにすることさえ困難であった。

4 結果および考察

- (1) 既製品浴衣について資料として用いた9枚のなかで、No.7の浴衣はネット通販で購入したものである。購入価格を明記していないが9枚のなかで最も安価で手に入れている。店頭で購入せず画像を見ただけで購入したため、問題点が多く見られたものと思う。
- (2) No.4の浴衣はファストファッションを扱う大型量販店から購入したものである。洋服と同様に既製品浴衣も安価で販売しているため、年に1～2回しか着用しない浴衣の場合、手軽に買える価格が魅力なのかも知れない。
- (3) 浴衣地の風合い、色柄、文様などについて今回の調査に示していないが、呉服店から購入したNo.8とNo.9の浴衣は、他の既製品に比べて、布地の質感もよく、従来の仕立て方に見られる、袖口や衿下から裾にかけて表側から見える部位をくけ縫いしていた。部位に適した縫い方をしていることで、他の既製品よりもきれいな縫製がなされていた。
- (4) 今回の資料について、購入価格が不明のものもあり、価格からみた縫い方の相違について考察ができなかったが、安価で購入できるファストファッションを扱う大型量販店やネット通販、さらに貸衣装店から無料で貰ったものなど、これらの6枚の既製品は手縫いの個所が全くなく、すべてミシンで縫製されているため、浴衣の表側にミシンの縫い目が見えて、非常に粗雑な印象を与えてしまう仕立て方になっていた。
- (5) きものを仕立てる場合、並幅に織られた一反の反物を縫い代は落とさず仕立てるが、全てミシンで縫われた6枚の既製品は、洋服の仕立て方と同様に縫い代を細く落としロックミシンで縫い代を始末していた。

5 まとめ

今回の資料として用いた、9枚の既製品浴衣と仕立て屋により仕立てられた浴衣を比較し、縫製方法の違いについて調べた。本授業を受けるまで、仕立てた浴衣を実際に手にすることや、見た経験がない学生のなかには、縫製の仕方による審美性の違いを目の当たりにして、驚きの表情がみられた。

現在、市場に出回っている浴衣のほとんどが既製品であり、日本の伝統衣装でさえ縫製は東南アジア諸国が占めているのが現状である。

学生が浴衣を購入する場合、安価で入手できる点や、見た目の可愛さ美しさなど、洋服と同じ感覚で選ぶのが大半であると思える。家庭においても母親や祖母などを通じて、着物についての知識を得る環境をもたない学生は、浴衣の縫い方の良し悪しが理解できないまま来ている。

今回の考察を通して、手縫いで仕立てる意味や美しさを理解させる必要性を強く感じるとともに、引き続き今後の教育に繋げていきたいと考えている。

参考・引用文献

- 1) 小川秀子：構成授業における合理的製作工程の試み－女物ひとえ長着について－新潟青陵女子大学短期大学研究報告 第28号 1998.
- 2) 渡邊芳道他：東京家政大学博物館紀要 第6集 2001.
- 3) 寺田恭子他：東京家政大学博物館紀要 第11集 2006.
- 4) 知野恵子他：東京家政大学博物館紀要 第12集 2007.
- 5) 大平光子：文化女子大学紀要.服装学.造形学研究35 2004.
- 6) 熊田智恵他：和服 平面構成の基礎と実際 衣服生活研究 1987.p 120.p 162.p 163
- 7) 財団法人 日本ファッション教育振興会：和装 初級編 1997.